

視覚障害の人が使いやすい

文房具・カレンダー・本

白黒反転

「白黒反転文房具」を知っていますか？ 弱視などの視覚障害を持った人が使いやすいように工夫された文房具です。(武田祐一)

東京・神田神保町の大活字本の専門店「Viva a (ビバ) 神保町」には

「白黒反転文房具」のコーナーがあります。定規や分度器、黒いノートなどが並び、壁には「白黒反転カレンダー」がかけられています。

高齢者や健康者も

「白黒反転文房具」は「ロービジョン文房具」とも呼ばれています。ロービジョンとは、視覚に何らかの障害がある状態のことです。世界保健機関(WHO)は矯正視力0.05以上0.3

未満をロービジョンと定めています。視力だけでなく、視野の狭さや、まぶしさも含まれます。こうした障害者のために開発されたのが「ロービジョン文房具」です。

NPO法人「大活字文化普及会」の事務局長の市橋正光さんは「黒地に白抜きを組み合わせたコントラストが最強です。道路の表示や映画のエンドロールにも使われています。白黒反転カレンダーは盲学校でも採用され

ています。弱視者だけでなく、高齢者や健康者にも見やすい」と話します。

黒は目にやさしい

「弱視者問題研究会」役員の新井愛一郎さん(64)は白黒反転文房具を愛用しています。「カレンダーは日常生活の中で、ちらちら見るものだから、白黒反転の大きな文字は、裸眼でも

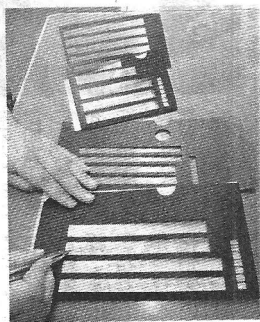
無理なく見えるのがいい。弱視で白い紙はまぶしいのですが黒地は目にやさしい」といいます。



市橋さん



新井さん



宛名書きガイド

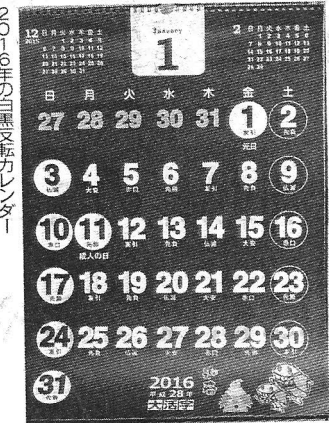
当てて置き、くり抜いてある枠に沿って記入するもの。「ルーペで手元だけ見て字を書いていると

少しずつ普及進む

無理なく見えるのいい。弱視で白い紙はまぶしいのですが黒地は目にやさしい」といいます。銀行などの書類を書く際に使う「罫押し印ガイド」もあります。分度器や三角定規はおもに特別支援学校の生徒が使っているといえます。「Viva a 神保町」には大活字の白黒反転本を

生活向上にもっと役立てて

市橋さんは「白黒反転の道具や本は少しずつ普及していますが、あまり知られていないのが現状です。ロービジョンの人たちの生活向上のために、もっと、こうした道具を役立てていただきたい」と話します。大活字文化普及協会のホームページは「大活字」で検索できます。



●白黒反転文房具の販売コーナー＝Viva a 神保町
●22ポイントの大活字を使った白黒反転書籍。右は通常版の本

